

『聞こえますか、お母さん』



おだやかな心にも、悲しい心にも、
そして闇に閉じこめられた心にも。
やさしい「母」の想い出が届けます
お茶の水女子大学 文教育学部教授 耳塚 寛明

大正 昭和 平成 令和 どの時代でも愛は伝わる。——— 愛に響く心の世界を
誰かへ伝えたい人へ読んでほしい。——— 愛に響く心の世界を

熊谷めぐみ著『聞こえますか、お母さん』 想い出は風に舞って』という本が文芸社から刊行された。A5判41頁、一五七五円。

これは、八年前に「うつ病」を発症し、二年間闘病に苦しみながら、それを乗り越えることができた経験者として、「うつ病」は必ず治るというメッセージを伝えたいという思いで作詞・作曲した「聞こえますか、お母さん」と、うつ病を克服した経験者として病と闘

う人たちへ贈る「励ましの時」（作詞・熊谷めぐみ、作曲・ときゆうじ）という歌をCDに収め、詞を写真とあわせて収録したCDブックである。

「まぶた閉じれば／母の笑顔が／私にやさしく語りかけるよ／あの日、私は／母に抱かれて／絵本の風の／お客さま」という詞で始まる「聞こえますか、お母さん」にはモノクロの写真、「励ましの時」にはカラー

の写真が添えられている。善頭の△プロローグ新境地へ▽によれば、ほとんどの医師から「治らないかもしれない」と宣告され、生きる希望さえ失っていた著者を救ってくれたのは、「あなたがここにいてくれるだけでいいんだよ」という夫の言葉だったが、△うつ病」を

経験したことによって、心の中の様々な想いに気付き、その想いを娘に伝えたい一心で詩を書くようになった。そして告白している。そんな経験を持つ著者による胸に響く詩の世界を、山形県の新潟の町を舞台にした美しい写真とメロディーで表現している。（写真は同書の表紙）

同書の表紙）